

〔市立芦屋病院 内科〕

【研修内容と特徴】

臨床の現場での臨床実務の体験を通じて、これまでに学んだ基礎的知識、医学的技術、診療技能を更に拡充、体系化する。また病院内外の医療従事者、コメディカルスタッフとの協力体制を通じ、病める人の全体像をとらえる全人的医療を学び、チーム医療を統括する能力、地域医療に参画する視点を身につける。

【芦屋病院の研修プログラムの特徴】

- (1) 中規模の地域中核病院としての芦屋病院の特色を生かした研修
 - ・病診連携、福祉、介護施設との連携の実践
 - ・急性期病院（内科救急告示、外科救急告示、小児二次救急）での実務体験
- (2) 芦屋病院、特に消化器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、緩和ケア内科、循環器内科の専門性を生かした研修
 - ・消化器内科全般：内視鏡治療、非侵襲的治療
 - ・腫瘍内科：化学療法、終末期医療
 - ・糖尿病内科：インスリン治療、インクレチン関連薬による治療
 - ・緩和ケア内科：緩和ケア病棟での治療
 - ・循環器内科：ペースメーカー治療、虚血性心疾患、陽圧換気療法
- (3) 緊密なチーム医療体制
 - ・臨床各科との連携：各科の垣根を越えた（ボーダーレス）体制
 - ・コメディカルとの連携とチーム医療の実践
- (4) 選択制に対応
 - ・将来の進路を視野に置いた選択プログラム

【研修の実際】

- 研修医は上級医師の副主治医として診療へ直接参画する
- 院内各科で実施する臨床検査に積極的に参画する
- 上級医師の指導の元に院内業務（当直、救急業務）につく
初期6カ月間は補助的な業務にとどめる
- ローテーション期間中は原則としてその科の患者の担当医（副主治医）となる
その間支障のない限り病院業務（当直、臨床検査、救急業務など）は平行して行う
指示、投薬、書類の記入、その他の決定は上級医師が行う
- ローテーション期間中もその科に限らず適宜他科の症例も体験することができる

【研修プログラム】

1. 研修期間：平成29年4月～平成31年3月
 - ・内科2～6カ月間（2ヶ月を1単位）
 - ・ローテーション順序については、受け入れ科の定員に応じて調整する場合がある
2. 研修スケジュール
 - ・単なる見学に終わらせず診療実務の中で基本事項を修得する
 - ・各ローテーション科で到達目標を設定し指導医が確認、評価する

- ・研修記録、受け持ち症例要約を各自・病院双方で保管する

3. 研修内容

- ・内科

コミュニケーション技術、診療の基本技術

身体所見の取り方、基本検査手技

単純レントゲン、心電図の解釈、エコー、内視鏡、造影レントゲン、CT、MRI など画像診断

血液・骨髄細胞の検鏡、細胞診

緊急検査：血液算定、血液ガス、生化学

治療技術、投薬、注射、輸血、中心静脈路を含む血管確保、呼吸、循環管理

内視鏡治療など非侵襲的治療、癌化学療法

代表的内科疾患の診断、治療、管理

チーム医療、インフォームドコンセント、患者教育

【教育に関する行事】

毎朝8：30～定例ミーティング

	月	火	水	木	金
午前	胃内視鏡 腹部エコー	大腸内視鏡 上部消化管造影 腹部エコー 腹腔鏡	胃内視鏡 上部消化管造影	胃内視鏡 上部消化管造影 注腸	胃内視鏡 注腸 腹部エコー
午後	大腸内視鏡 ERCP 心エコー		大腸内視鏡 ERCP	トレッドミル 血管造影	心エコー
回診	院長	副院長 循環器 糖尿病・内分泌 消化器 カンファレンス	血液・腫瘍内科 カンファレンス		腫瘍内科部長
定例 行事		内視鏡X線 検討会 心電図研究会 文献抄読会	医局会 症例検討会 CPC	消化器 グループ回診 症例検討会	

指導医等

病院長：西浦 哲雄 副病院長：竹田 晃 血液・腫瘍内科部長：白鹿 正通

糖尿病・内分泌内科部長：紺屋 浩之 循環器内科部長：北川 泰生

総合内科部長：片岡 政子

研修実施責任者

糖尿病内科部長：紺屋 浩之